

学校評価趣意書

令和7年4月1日
尾道市立美木原小学校

1 学校内外の状況

（1）児童について

本校は、平成29年4月に尾道市北部4校が統合し、美木原小学校として開校した。今年度、開校9年目を迎える。児童数119名、学級数10学級（通常学級6、肢体不自由特別支援学級1、病弱・身体虚弱特別支援学級1、自閉症・情緒障害特別支援学級2）、校区は、西は三原市、東は福山市に隣接し、東西に広く、バス通学者が約5割いる。

開校9年目を迎えた現在は、児童の友達関係も深まり、落ち着いた学校風土をつくることができている。統合当初4地域のつながりを深めることを念頭に組織されていた育友会も、地域の枠組みを解体し、学年の輪を構築するよう組織を編成し、美木原小学校区としての団結が高まっている。

「自分たちで創る」をテーマに、児童自らが学校生活を楽しくよりよくするための取組を企画・運営すること、児童会と委員会が協働した生活指導や集会等を実施することが美木原小学校の伝統となっている。感染症対策は5類移行後に一定の落ち着きがあり、児童が関わり合いの中で協働的に活動できる場を増やしている。児童アンケートでは、主体性に関する項目で肯定的評価をした児童が昨年度末には93.1%であった。

学力については、「考える 伝え合う力」をキーワードに授業改善に取り組んできた。また、学校図書館を活用し、図書資料や新聞を情報源や発信方法として活用することにも継続して取り組んでいる。国語科においては、令和3年度から、フレームリーディングの手法を取り入れた指導を実践してきた。しかし、読解力については全国学力・学習状況調査において全国平均より約10ポイント下回る状況があり、授業改善は十分ではない。昨年度12月に実施した標準学力調査の結果は以下の通りであり、3学年で全国平均を下回る結果となった。（1・6年生は学校独自の取組のため、尾道市の平均は公開されていない）

〈国語科〉

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
美木原小	66.8	79.2	65.2	68.3	64.4	71.1
尾道市	-	78.0	62.8	69.4	70.8	-
全国	74.0	75.9	62.3	69.9	71.9	69.9

〈算数科〉

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
美木原小	76.1	70.6	77.6	74.7	54.8	69.7
尾道市	-	74.3	71.6	71.7	65.1	-
全国	81.1	69.1	70.9	68.0	62.2	67.3

国語科・算数科の両教科において、設問を正しく読み取り、問われていることに正対して答えることや漢字の書き取り、主語・述語の関係、四則計算、公式の活用等、各教科の基礎・基本の内容定着に課題が見られる。各学年で定着させるべき内容の弱さがある。個への支援の充実が必要である。

本校では、週に一度「NIEタイム」を設定し、指導の充実に取り組んできた。児童のワークシートや指導について等を交流する中で、「NIEタイム」は、職員にとって一定の効果を感じられ、今年度からは、週末の家庭学習で継続して行い、国語科の授業でも計画的に取り組む。また、昨年度から音読を中心としたドリルタイムを朝の時間に行い、文章を読むことに慣れ親しませるとともに、声をしっかりと出させるよう反復練習や姿勢を意識した時間となるようにして取り組ませ、基礎基本の学力定着を目指している。授業時間以外の時間設定の中でも、教科で学習した内容が活用できるよう、意図的な指導を工夫している。

今年度も継続して、児童の確かな学力定着の取組の充実に取り組む。

（2）教育活動

本校では、これまで、児童につけたい資質・能力を「コミュニケーション力」「情報活用力」「表現力」とし、学校図書館教育やNIEを進め、フレームリーディングを活用した国語科の授業づくりを通して、「考える、伝え合う力」の育成を図ることに取り組んできた。児童が言葉による見方や考え方を働かせ「言葉にこだわって考える授業

づくり」について、フレーム（目のつけどころ）をもたせて読むことの面白さを体感させたりする指導の工夫を重ねてきた。

今年度の研究主題は「読解力を高める授業づくり」、副題は『「言葉」を手がかりに「伝え合う」授業を通して』である。今年度の教職員で昨年度までの実践を共有し、これまでの取組を継続して深めていくとともに、話し合い活動を取り入れ、児童が学び合う授業に取り組む事で読解力を高めていきたい。その中で、自分の考えを持ち、人との関わりの中で伝え合う力を高め、広げることができる児童を育成していきたい。

生活面では、今年度も、学習を支える学校生活を自分たちで創ることを大切に、「生活を創る」取組を継続し、児童の主体的な学びを育てていく。学級活動での話し合い活動を充実させ、学びに向かう学級集団に育てていく。

また、小中連携について、美木中校区（美木中学校、三成小学校、美木原小学校）のスクールミッションは、「小中連携教育を核とした確かな学力の育成」である。今年度も、美木中学校区の3校でこれまで以上に連携をとりながら教育活動を進めていく。15歳の生徒の具体的な姿を共有し、小中9年間を見通した児童生徒の育成に取り組む。

（3）教員集団

本校は教職員集団の年齢構成や経験のバランスに偏りがある。今年度も、異動による教職員の入れ替えが多く、昨年度までの取組を共有することや、児童実態・保護者・地域について、全教職員で共通理解をもつことが大切になっている。また、運動会や地域行事、育友会活動等、コロナ禍で実施できなかった様々な取組について、十分に経験していない教職員が全体の3割程度を占めており、学校教育活動を伝承することにも課題がある。複数体制で取組ができるよう教員の支援体制についても工夫する。

今年度も学校評価と業績評価をリンクさせ、教職員一人一人が学校教育目標達成へ向けた具体的な実践が行えるよう、年度初めに教科指導内容と具体的指導方法を共有化し、指導の学年差が生じないように留意する。また、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励を始め、それぞれの教職員が個性や良さを発揮し、協働的に仕事に取り組むことができる職場づくりを目指している。

（4）教育環境

学校図書館環境の整備や新聞購読を継続しており、読書活動やNIEの取組を土台として、学力向上の取組を進めることができる環境の構築に努めていく。教員と児童と一緒に他学年の授業参観を実施することで、お互いに学び合う風土を広げていく。

また、今年度も中学校区の連携教育を継続し、美木中・三成小と学習指導や生徒指導の教育方針を揃えることで、義務教育9年間の指導の連続性を図っていく。

2 スクールミッション

小中連携教育を基盤とした確かな学力の育成

3 スクールビジョン

花と緑と子供の笑顔があふれる学校

- 児童の主体性を育み、未来につながる学力をつける学校
- 幼・小・中の連携による学びの連続性を大切にする学校
- 家庭・地域とともに、子供の育ちを考える学校

4 重点課題

つけたい資質・能力を学習・生活の基盤となる「コミュニケーション力」「情報活用力」「表現力」とし、次の2点の姿を目指して、教育活動を推進する。

◆自ら課題を発見し、探究的に学ぶ子供 ◆自分の考えを自分の言葉で発信する子供

課題の取組として、生きる力の基盤となる「豊かな言葉と心を育む」読書活動を教育活動の土台として、学習と生活の両面から児童の主体性を育てる。

「学びを創る」・・・「考える、伝え合う」力を育成し、学び合う学級集団をつくる授業改善

「生活を創る」・・・児童自らが学校生活を創る主体的で実践的な力の育成

ー児童主体の話し合い活動による児童会活動・学級活動ー